

幼 兒 教 育 研 究 雜 誌

女 人 と 子 ども



第 九 卷 第 六 號

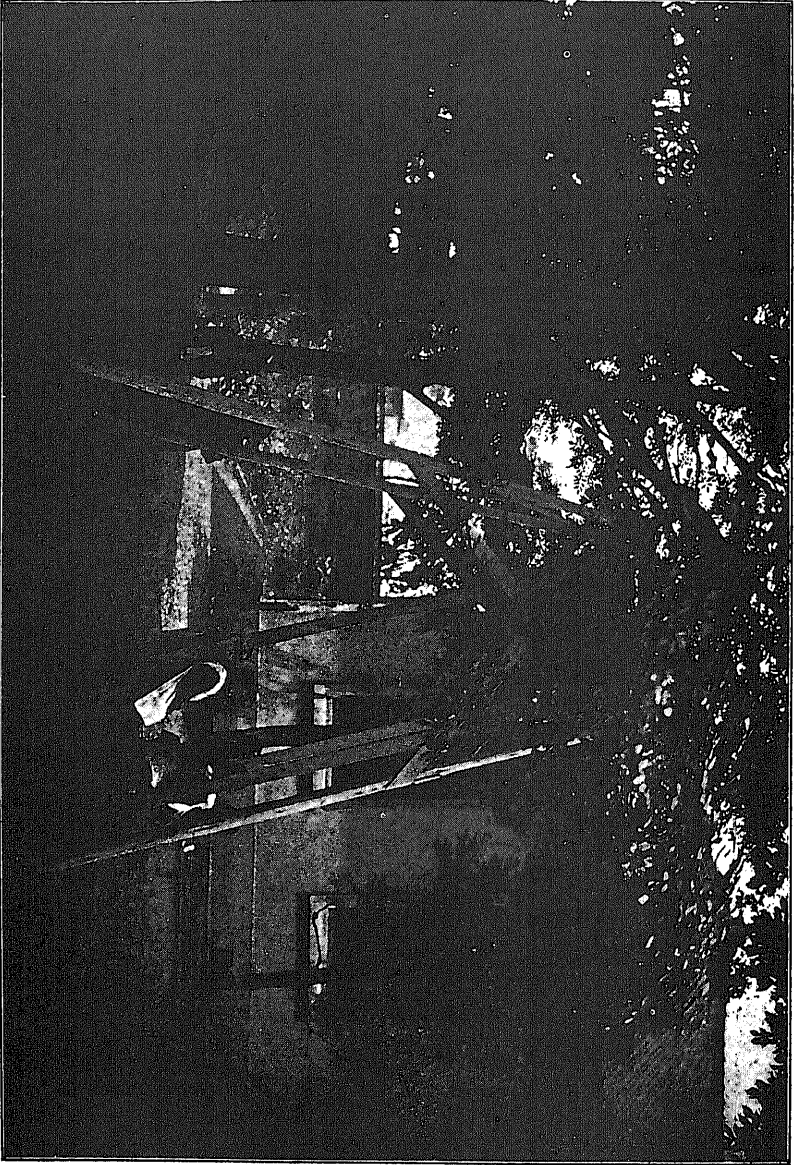
明治四十二年六月五日發行（毎月一回五日發行）

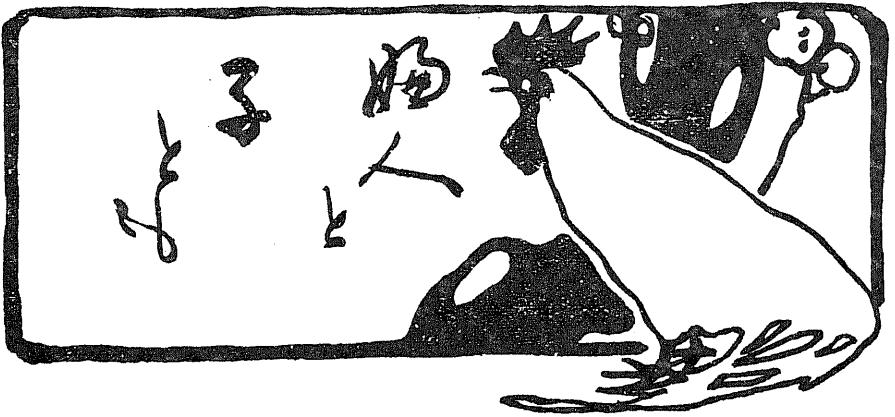
目 次

●沈着なる可きこと	それがし
●幼児の教育機關に就て	寺田勇吉
●童話に就て	高島平三郎
●子供と談話	後藤らとせ
●幼稚園に於ける幼児保育の實際	
●主人と僕婢	某 女 史
●玩具店を開きて以來の余の感想	樂 天 子
●配布玩具の説明	高 市 次 郎
●お伽話「金の鴨」	和 田 實
●雑 誌	と ち 子
明治三十四年一月二十八日（第三種郵便物認可）	數 件

フ レ ー ベ ル 會 社 發 行

コ
ソ
ラ
ゾ
子
椅





第九卷第六號

沈着なる可きこと

それがし

人の常にそはくとして沈着のないのや又は何事かあつた時、忽ちに狼狽して見苦しい容子を顯はす等はみな大抵心の淺き者のなす事であつて、決して思慮分別があり、且勇氣のあるものゝ爲すことでない。古語にも「重らざればすなはち威あらす」と教へてある。其れで武人が、武術を修行するには常に互に不意打をして嗤嗟の間に體をかわし又、これを防ぐことを練習しつゝ、精神のなちつきを作り、學者は事物の理を考究して斯くくの折はかやうに分別す可きもの、云々の時はかやうに處置す可きものなどと云ふことを工夫して物に動せぬ修行を積むのである、非常のあつた場合などに能く其危難を逃れて却つて幸福の境に至ることを得た人々は先づ此沈着があつて然るのちよ、後宜しきに處せらるゝもので英雄の傳などに其人物を評して、沈勇だの、慎沈だの、莊重だのとあるは、いかにも其人柄が推し量られて頼もしく侮り難いやうに思はるゝが、これに反して輕侮だの、輕跳だのと云ふと誠に頼もしげなく侮り易きやうな心地がする、彼青淵の底深き處は常に靜かであつて淺き處には波の立つが如く思慮深き人は沈着にして思慮淺き人は輕躁なものである。

幼兒の教育機關に就て

前文部次官 寺田勇吉

諸君教育と云ふものは明け暮れ人に付き添て居るもので人が生れて此世へ出るや否や直に教育の必要が始まつて死んで棺の蓋をされてから始めて止むものである若し獨嚴密に論ずるならば胎内の教育もあり死んでから後の教育もあるかも知れない然し先づ現世に居て吾々が受けねばならぬ教育に就て論ずれば其階段が凡そ三段ある先づ第一は家庭教育で其次は學校教育其次は社會教育である此三段の教育が偏頗なく行はれてそこで始めて教育の目的を達することが出来る若し此三段の教育なる成功を観ることが出来る若し此三段の教育が一方に偏するとか又は互に衝突する様なことがあつては到底完全なる教育の効果を收むることは出来ない例之學校に於て「ベスト」病は實に恐るべき傳染病である之を豫防するには斯くくせねばならぬ住家の近傍を清潔にし塵埃捨場などは取り

分け能く掃除せねばならぬと云ふことを兒童に教へた所が其兩親が此等の心得がなく、何、塵埃捨場の汚穢ないのは當然だ別に掃除の仕様があるものかなどと家庭教育で學校教育を打ち消す様なところがあつては教育の効能の見える筈は無い只「ベスト」が彼地にも此地にも蔓延して教育家にも衛生家にも醫者にも警察官にも防衛の手段が盡きて仕舞ふ、是れは家庭教育と學校教育と衝突するからである、貧民の子弟が肝要の修業年齢に終日子守を爲すとか家業の手傳をなすとかで學校へ就學することも出来ず親に付いて工場に出掛け親と共に工業に従事するとか云ふ様な類は家庭教育ばかりに偏すると云ふてよいこんな類は或は教育などと云ふ名を下すことは出来ないかも知れぬ斯様な譯では到底完全なる教育の効果を收むることの出来ぬは吾輩が喋々説明するまでもない、然るに我邦の現在の有様を見れば學校教育には世間の人も漸々盡力するやうになつて益々盛になつて來たが、家庭教育は未だ至つて振はない貴族と呼ばれ紳士と自稱する連中すら、家庭教育のことは餘り

注意するものがない、公人としては随分人よりも尊敬せられ國家よりも優待せらるゝと云ふ様な人々でも、一寸其家庭の内幕を窺つて見ると實に御話にもならぬと云ふ様な事がある、然らば社會教育は如何と云ふに是れ亦甚だ衰へて居る我國でも維新以前は社會教育は随分行き渡つて居つた様に見える其の金銭の貸借證文などを見ると若し私中が此借りの金を約束通りに返さなかつた時には人中で御笑ひ下さつても少しも苦しくないといふ様なことが書いてある之を讀むと此時代の社會は痛く違約を責めて若し違約者あれば之を擯斥して、仲間入をさせぬと云ふ社會の制裁が明かに見える即ち社會教育の効能である然るに今日は如何であるか五圓十圓の貸借にも證文が要る抵當が要る證人が要るそれでまだ満足が出来ぬと云ふて政府を第二の證人に立て収入印紙を貼付して政府に保證して貰ふやうな次第である斯程嚴重にした以上は貸借上の間違は無いかと云ふに裁判沙汰になるものが案外に多い、若し昔の様に笑はれた位で借金を返さずに済むならば吾もくと借金する人

ばかり殖えて仕方がないかも知れぬ畢竟信用に關する社會の教育が行はれないからである、我邦今日の家庭教育と社會教育とは先づ斯様な有様であるから吾々は今後大に家庭教育を社會教育の方面に向つて盡力せねばならぬ、夫故、諸君も吾輩と共に幼稚園の事業に盡力せらるゝは余輩の深く同情を表する所である。

借て諸君の盡力せらるゝ幼稚園の事業は家庭教育に屬するか又は學校教育に屬するかと云ふに、吾輩は家庭教育に屬するものと思ふ、何となれば幼稚園と云ふものは家庭教育の及ばざる所を補ふものである決して之を學校教育と同一に視るべきものでない、若し學校教育に屬するものと云ふ様な考を持つならば、夫は大間違である、家庭教育を補助する機關に種々の種類がある其第一は乳兒預所である出生後二週間より満三才迄の兒童を預る所である一寸其起源を述べれば千八百四十年佛國巴里に於て始めて設立せられたるもので巴里の醫師「フイルマン、マルポー」と云ふ人の考案から成立つたものである此「マルポー」と云ふ醫師が巴

里の貧民の子供が折角此世に生れて來た甲斐もなく狭い腹の中から廣い世界に出るや否や、貧乏の爲めに苦められて或は病氣にかゝり或は死んだりして満足に生長することの出來ないのを憐んで何卒不幸の子供を救済したいと云ふ慈悲心から考へ出したものである「マルポー」の言つた辭に母親の仕事する間児童を看護し母親の不在の間児童を世話し児童の教育の手傳をなすは最も仁愛ある最も智慮ある最も有望なる事業であると言つた「マルポー」は此趣意で乳兒預所を設立して母親が工場等へ出て仕事をす間乳兒を預り乳も飲ませる入浴もさせる大小便の世話もする衣服の洗濯もしてやる、眠むたがる者は寝かし起きて遊ぶ者には玩具を與へて遊ばせると云ふ様に丸で家庭で慈愛厚き母親の膝下で養育せらるゝと少しも違ひないと云ふ取扱をなすのである、此乳兒預所の恩澤で貧乏人の小兒も満足に生長することが出來其兩親も安心して精一杯仕事に従事することが出来る「マルポー」の考は至極よいと云ふので漸々發達して歐洲の文明諸國に行はれ今日は佛蘭西一國でも

乳兒預所が數百ヶ所もある程である。家庭教育を補助する第二の幼兒教育の機關は托兒場である。是は満三才から満六才迄の兒童の世話をなし身體上の危険なき様に保護し又食事の時間が來れば食物を與ふるのである。兩親が毎朝仕事場へ出るとき其小兒を連れて托兒場へ連れ込んで保護を頼み置き日暮方仕事場を終て家に歸る時又托兒場まで立寄つて小供を連れて歸ると云ふ仕組である。貧民子弟の家庭教育を補助するに欠くべからざるものである、第三は即ち私の設立せる精華學校の幼稚園と同種のものである。此種の幼稚園は幸に吾國にても追々發達して來た。次は兒童救護所である、人殺をしたとか窃盜をしたとか或は火付けをしたとか其他種々の罪惡を犯し裁判宣告に依て處刑せられて自分の兒童を自分で教育することの出來ない親達の子供又は兩親に死別れた小供、又は小供を置き去りにして思ふ人と手を携へて逃亡し行衛不明と云ふ様な人の子供、此等の不幸の小供で親類の引受手もない朋友の世話のしてもないと云ふ様なものを引き取つて教育する所である。尙ほ此外にも兒

童教育の爲めに設置せられ兒童教育の機關たるのは種々あるけれども先づ大要只今御話した通り者ものである是等は何れも家庭教育の及ばざる所を助けて家庭教育の完全を圖るを目的とするのである即ち下等社會の人々が或は自分の稼業に忙はしくして小供の教育をすることの出来ない、小供の世話をして居ては其日の生活に差支へると云ふ家庭の爲めに必要なものである、我邦に於ても何卒此等の各種の設置が各地に行はれて大に家庭教育の完備を圖る様に致したい殊に東京京都大阪及神戸地方の如き工業に従事するもの、多き地方に於ては前申た乳兒預所とか托兒場とか云ふ様なものを澤山設置するは頗る必要なことと思ふ、吾輩は今後世人が此點に向つて少しく考慮を費されんことを望む。

借て幼稚園に就ては諸君は既に十分の智識と經驗とを有せらるゝことを信するを以て吾輩は別に喋々せず只一二の希望を述べて諸君の注意を煩はしむたいと考へる、吾輩が幼稚園に就て諸君の注意を煩はしたいと思ふ第一の希望は幼稚園を以て學校

教育と同様に見て貰つては困ると云ふことである之は吾輩が事新らしく申し述べるまでもなく分りきつたことである併し今日の各地の幼稚園の實況を視るに此點に關する注意が至つて乏しい様に思はれる元來幼稚園は諸君も御承知の通り就學年齢前即ち三才乃至六才までの幼兒の家庭教育の及ばざる所を補助して幼兒の身體及精神上の發育の完全を圖る所である故に其教育方法は云ふまでもなく「フレイベル」の主義に従はねばならぬ「フレイベル」の教育主義とは幼兒の心の中に將に發生せんとする理性の萌芽を天然の法則に従つて發育する様に教導をせねばならぬと云ふことである「ハールマン」と云ふ人の言つたことに幼稚園は美麗なる庭園である保姆は丁度庭作りの様なものである此庭作りは其庭園の草木の性質に従つて嫩葉伏芽の發生を保育せねばならぬ土地の乾濕氣候の寒暖周圍の狀況に應じて相當の手當を施さねばならぬ未來の生長を害ふべき雜草を蒞除せねばならぬと言つたが幼稚園の教授法を譬喩的に説明した面白い説である斯様な譯であるから幼稚園にて

は學校風の教育は之を嚴禁せねばならぬ、然るに現今我國の多くの幼稚園中には學校風の教育を施し、幼稚園に於て文字の読み書きも教へる算術も教へる習字も教へると云ふ所があつて殆ど學校と異ならない幼稚園があると聞く現に先年東京の或る幼稚園等は其幼稚園の保育を終つた者には小學校の第二級へ入學を許可して貰ひたいと云ふて其筋の人に内願したことがある是は勿論世間の幼稚園主の多數と云ふことは出来ぬが幾部分の意思は代表したものと謂つて差支なはと思ふ、斯様な間違つた思想が幼稚園設立者の間に行はれるのは畢竟幼稚園の研究が足りないから起る弊である然し是も幼稚園主ばかり咎める譯には行かぬ幼児の両親たるものも共に其罪を分けねばならぬ、幼稚園へ幼児を入れる親達も幼稚園を以て小學校の初歩を授ける所と考へる者がある四才や五才の幼児が幼稚園で不法の教育を受けて一二三の數字でも書ける様になつたり、いろはでも讀める様になる

と其親達は鬼の首でも取つた様に大喜びで近隣の人に誇る朋友にも話す親類の人でも來ると「坊や

いろはを御讀み」としていろはを讀ませる親類の人は非常に御進歩ですと褒めると云ふ様な風である幼稚園で斯る不法の教育を受けるのは本來悲むべきである「フレイベル」は幼稚園は小學校ではない、兒童の樂園であると云つたが右の様な譯では樂園どころではない兒童の爲めには一の苦役場となるのである然るに其悲むべきを知らずして却て之を喜ぶと云ふ親達の心が幼稚園の教育をして學校風に越かしむる一の原因をなすのである、吾輩は諸君の盡力に由て世間の親達も、速かに斯る考を改める様にしたい又幼稚園の事業に従事するものも能く幼稚園の趣意を辨へて幼稚園は身体の健全を計り良習慣を養成するを目的とし幼稚園を以て小學校の第一學年を教ふる場所と思ふ様な大間違をなさぬ様に注意して貰はんければならぬ第二の希望は現今我國に設立せる幼稚園の外に下等社會の家庭教育を補助する幼稚園を多く設けたいのである我邦現今の幼稚園の有様では下等社會の爲めには何等の恩恵をも與ふることが出来ぬ、獨逸は幼稚園の祖國であるから定めて各種の幼稚園も

澤山あるだらふと思ふ人もあるが實際彼の國へ行つて見ると中等以上の家庭に於る兒童を收容する幼稚園が案外に少なく多くは下等社會の爲めに設立せられたものである、下等社會の家庭の母親は工場へ行くとか郵便局に出るとか夫々稼業に忙しくして可愛い小供の世話さへして居ることが出来ぬ又斯様の家庭の母親は縱令多少の餘暇があるとしたところが充分に其小供を保育する程の智識をもつて居ない是は下等社會の婦人の悲しさに、相當の教育を受けて居らぬから小供を造ることは知つて居ても小供を教育することは知らぬ、そこで托兒場に托して小供の世話をして貰ふと云ふ譯で獨逸の托兒場は下等社會の家庭教育を補助するに缺く可からざる機關となつて居る我輩は諸君の盡力に依つて我邦に於ても獨逸の如く下等社會の用をなす托兒場の漸次設立せられんことを希望するのである。

諸君、我輩は幼兒の教育を論ずる毎に必ず思ひ出す一問題がある其は女子教育の問題である何故幼兒の教育と同時に女子教育の問題が出るかと云

ふに、幼兒の教育の善くなるも悪くなるも其運命は一に女子教育の如何に依つて決せらるゝからである即ち幼兒の母親の教育如何に依つて決せらるゝからである、吾輩は過日一教育の効果を收めんと欲せば先づ賢母を養成せざる可からず」と題して女子教育に就て卑見を述べたが、其筆記は諸教育雜誌などに載せてあるから今日は詳細のことは略しまし、母親は幼兒の教育に就ては全權を握つて居る一家の戸主と云へば男子即ち幼兒の父親である然るに其家庭の教育の主人公は母親である、母親は實に家庭教育の大先生である先づ胎内教育を初とし生れ出て専ら母親の教育を受けて生長するものである、人は生れるから死ぬまで絶えず教育を受けねばならぬ吾輩は此長い間の人間一代の教育の半分は既に幼兒が母親の懷に抱かれて乳を飲ませて貰ふ間に卒業するものと思ふ、即ち二三才までの間に人生教育の半分は卒業するもので其残り半分を其後の家庭教育學校教育社會教育等に依つて補充するものであると思ふ母親の教育の必要なることは古來より言ひ来たつたもので今更耳

新らしく言ふまでもないが「スマイルス」は母親の教育の勢力の強いことを説明して母親は家庭の「マグネット」である丁度鐵片が「マグネット」に吸集せらるゝ様に其家庭に居るものは誰一人として母親に感化せられないものはないと云つた、簡單にして味のある言葉である幼児教育と女子教育とは斯様に密接の關係を有するから、吾輩は幼児教育の問題は即ち女子教育の問題であると思ふ女子教育の問題と云へば其研究すべき事柄は澤山あるが結極我邦の女子教育を盛にして將來人の母たり妻たるものに相當の教育を興ふる様にせんければならぬと云ふことである、我邦の女子教育は近來大に進歩したが其實質に就て見れば未だ完全とは申されないことが澤山ある、北米合衆國は諸君も御承知の通り女子教育の非常に隆盛な國である併し今日の隆盛を來した歴史を尋ねれば、世人が女子教育問題に注意せしは亞米利加の獨立戰爭以來のことである、しかも最初は種々の反對説があつて容易なことで發達したものでない英國なども同様で以前はあまり女子教育を重んじなかつた

「リチャード、マルカスター」などは女子教育の必要を認めながら猶女子教育を以て男子教育に隨伴する一の附屬物たるに過ぎないと言つて甚く女子を輕蔑し男子は天然に女子より貴重である殊に政治上に於ては猶更女子よりも大切である故に教育は全く男子の爲めに設けられたもので本來男子の所屬に歸すべきものなど、説いたことがある英國や米國すら、以前は教育家の間にさへ斯様な議論があつて女子教育に熱心の人々の盡力に依て搖籃の小兒は未來の大人は第二位に置かれたものであつた然るに其後段々女子教育である未來の大人を教育するは母親である故に母親を教育するは最も必要であると云ふことで段々母親の教育の大切なることが世間の人に認められ終に今日の隆盛を來したのである即ち女子教育家の盡力の結果である「フレイベル」の如きも幼稚園創立までには中々苦心したもので二十二年の時に教員の職に従事し夫から瑞西へ行つて、「ベスタロッチー」の處で修業して段々研究の功を積んで漸く五十五才の時に至つて幼稚園の考案が定つたので兒童の保育

機關を「ブランケンブルグ」に設立して「キンデ
ンガルデン」と名けたのが千八百三十七年である
即ち二十年以上も苦心盡力して始めて成功したの
である、故に吾々も「フレ！ベル」の心を以て倦
まず怠らず今後益々幼児教育の事に盡力し今後數
年の後には幼児保育事業の完全にならん事を希望
するのである。

童話に就いて

高島平三郎

童話と云ふものは幼稚園に關係ある讀者諸君には
頗る深い關係を以て居るものである、元來此幼稚
園の仕事と云ふものは幼児の自發想像が基になつ
て居る、即ち幼児の此時代と云ふものは想像の最
も盛なる時代なるが故に之に童話を聞かしむるこ
とは最も適切なることである、そして童話は想像を
基とせるものであるから自然童話は幼稚園の中心
となつて居る、もつまりは此時代の幼児の遊び
は凡て想像を基として居るからである。

童話の起源と云ふ様なことに就ては夫れく専門
に調査可き價値がある、今現在存して居る所の童
話を調べて見ると其起源は何れも各國の神話と大
に關係のあることが知れる、而して此神話なるも
のの起源に關しては三つの理由がある、童話の起
源を考ふるには是非とも此神話の起源からして調
べて來なければならぬ、其神話の起源に關する三
つの理由と云ふのは
第一、自然の現象を見て人が之に勝手な解釋を附
けることである、例へば「雨が降る」、一水が流れ
る」等の自然現象に對して先づ何故に此の如く降
り又は流るゝかと云ふ疑問を發し、次に之を自己
の日常生活上の習慣的思想に因りて説明し始め
る、即ち「水は神様が流して來さるゝの様に日常
の見聞に對して比較想像し始める、是等は凡て小
兒に表はる心象である、第二は類化の誤りより生
ずることである、
凡て物は直観した許りでは満足することが出來な
い、直観した以上は夫れに就いて考へ夫れに就い
て意味を付ける、例へば二三才の子供が櫻の花の

散るのを見てちい／＼（蝶々）と間違へる様な者である。米國の「ホール」氏は子供に雲を見せて其形に就いて種々なことを云はせて居るが之は即ち類化作用の現出である。

第三想像より起ることである。

元來神話は想像の産物であるが殊に單に自發想像ばかりでなく詩的想像が加はるので神話が一層の面白味をもつのである。且つ其語り傳へ云ひ傳へて居る中に其人々の詩的想像が加へられるので一層面白くなるものである。此詩的想像と云ふのは自發的類化作用に更に想像を加へたものである。

以上三つの理由に因つて神話と云ふものは出来るので幼兒のお伽話も其起源は是と全く同じ性質のものである。従つて童話には歴史、習慣、風俗、風景等が雜入し來るものである。

今日一般に行はれて居る童話の中には色々のものがある、大別して童話の最も根本的のもの即ち主なるものはと云へば桃太郎かち／＼山の類で頗る價值あるものである。之を民族的童話と云ふ。是等は畢竟自然に出來たものであるが之に對して文

學者の著作になつたものがある。併し是等の大部分は自然に滅して現今残つて居るものは極めて少ない。足利氏の末に戰國時代に圓端尼と云ふ人が愛國心ある童話を作つて大に歡迎された。之等の類は中々多いものである。此民族童話に對する一類のものを稱して假作物語と云ふのである。併し是等の童話は古よりの傳來的精神が入らぬから威嚴がない。民族童話は云ひ傳へ語り傳へる中に其民族の性情が入るので一種の犯しがたい威嚴を生ずる様になるものである。

次には偶話と云ふ一類である。彼イソップ物語は即ちそれぞ日本へは古くから傳はつて居るものである。西洋のものが支那へ傳はり其より日本へ重譯されたものである。年代は凡百五十年程前のことである。之等はか伽噺の中には是非加へなくてはならぬものである。併し之等の物語は人の精神が發達して來て動物を人間化して、想像する所から生じた物語であるから高き精神の表はれし後に生ずるものである。之は嚴密に云へば童話の中に

入る可きものではないが普通は入れてある、之は
童話の性質を失つて居る。何となれば是等の話は
何時も時と處と人との制限を以て居るものである
元來童話は時や處や人などの制限を受ける處に價
値があるのである。

以上説明した民族、假作、偶話、武勇の四つが普
通に童話と云はれて居るもので幼兒に極めて必要
なるものである。今我等に就いて一々説明して居
る暇がないから其中の民族童話に就いて少し御話
しをして見やうと思ふ。尤も民族童話と云ふても
世界各国にある事であるから今は唯其中で最も關
係の多い我國の民族童話に就いて少し御話して見
やう。

概して云ふと我國の童話は一般に極めて着實で誠
に空想が少ない。印度などになると考へは廣いが
如何にも空想に走つて居る。従つて其想像は實に
廣大なものであるが我國のものは多少之に異つて
居る。元來我國人は極めて着實な國民である。其
空想と云ふても實際に基くもので田園生活を基と
して其有様を材料として居ることが多い。従つて

話が何時でも實際的である。例へて見れば我國の
桃太郎其他の童話は何れも常に老人が主人公とな
つて居る。老人が談話の中心となつて居る。是は
家庭生活上老人の位置が子供に近い所から自然斯
様になつたものであらう。次には我國の童話は主
として義侠的思想を吹き込んで居る。是等も我國
民の思想上適當のことである。此の如く我國の童
話は頗る着實なるものであるから之を印度や、す
かんぢなびやの童話に比べると餘程教育的である
と云はなければならぬ。

併し我國の童話の中にも一つ如何はしいのがあ
る。彼たぬき汁の話即ちかちや山の話などは頗
る非教育的である。併し之は能く考へて見ると何
うも我國の童話として受取れぬと思ふ節が多い。
我國の童話には未だ嘗て斯の如く極端な例を示し
て居るものがない。是は多分外國から輸入された
ものであらう、何うも我國人の性情には適せぬも
のである。斯様な嫌ふ可き童話は家庭と幼稚園と
協同して成る可く滅亡さす可きものである。
數年前には教育上に童話を用ふ可からずと云つた

時代もあつた。殊に自然科学を研究して居る方面の人達は主として斯る考を以て居つて、教育上には實際の事例を用ふ可しと主張したるものであるが併し此議論は童話を幼稚園より排斥する程有力なものではなかつた。彼我國の童話が義侠心を鼓舞することなどは我國武士道の淵源で子供は知らず識らずの中に此精神を養ふことが出来る。童話には時間と空間との關係がない。又時と所に關係しないものである。此點に於ては白痴は大に其特長を發揮して居る。白痴は時と所とを能く忘れるものである。子供は稍之に似て居る。桃太郎の話などしても特別の所は覺えて居るが普通な所は皆忘れてしまふものである。又童話には固有名詞が多い。自然物の名は特別にはなかく覺えられないものであるが實際と關係をのけると能く覺える。而して其材料は兒童に直觀せしめて教へるを可とする。日本では宗教のことは別になつて居るが子供の宗教心を利用することは適當のことである。従つて子供への話の材料は大に其選擇に注意す可きである。科學研究家は

僞りを用ゆるのは悪いと云ふが童話の材料の僞りは子供には僞りとは思はれないのであるから差支ない。子供が其僞りであることを知る様になつたら其時は廢す可きである。若し科學者の云ふが如く幼兒にも童話を與へぬと云ふ様なことがあつたらば幼兒は幼兒としての當然の生活をしないで過すことになる。之は教育上大に忌む可きものである。一體童話ばかりでなく。人は全体其時代に於てに從つて経過す可き生活を經驗して置く必要がある。人の本能は活動するに時期がある。經驗す可き時期に於て其活動を充分に發展させなければ其人は其時代の經驗を一生せぬことになる。つまり經驗に於て人並の經歷を持たぬ人となる譯である。彼十四五才にして結婚する人が青年時代を経ずして直に成人になる様なもので此様な人は人間の當然経過す可き經驗を有せざるが爲めに或は青年に對して充分に同情する様なことは出来ない譯である。故に人は其時に於て、夫れ適當の生活をしなければならぬものである。幼稚園時代は人間の自然的想像の最も盛なる時代

で自他の區別なども未だ明ならぬ時である。此時に於て童話を以て諸種の方面に關係せしめて子供に於て童話を以て諸種の方面に關係せしめて子供の精神を明にして遣ふのは必要なことである。小學校時代に進むと子供は偽りを疑ひ始める。猫が物を云ふの？など、云ふ質問がそろそろ發して来る。此時には童話は大に注意を要する。材料選擇を謹み其内容を調べて程度を割り當てる必要がある。獨逸では既になしつゝある。我國で此方面の研究は極めて必要なことである。(記者曰く女子高等師範附屬幼稚園の要項には幼児に發達に應じて之を割り當て居る。)次には家庭に於て幼児の聞きたる童話の繪が幼稚園や學校に備へ付けてあると云ふことは必要なことである。

子供と談話(承前)

後藤 ちとせ

(二) 話し方の練習

談話と申すと單に保育者が幼児等に話して聞か

す事のみの様に考へて居らるゝ方がありますけれども話し方即ち幼児等が自己の思想を發表する練習も聞き方と同様に大切な事を忘れてはなりません。蓋し此練習は主として

已知の談話材料の復習の際
庶物話の時

幼児の経験其他を隨意に話さす事等によりて致しませんが尙

他の室内保育時間及び
外遊其他に於ける幼児同志や保育者と幼児との對話應答

等に於ても絶えず練習せられて居ります例によつて該練習をさせるに就き必要な注意を申し述べませう

(第一) 話し方練習に關する一般注意

- (イ) 野卑な言語を用ひしめぬこと
- (ロ) 幼児相應語尾明かな完全語を用ふることを奨勵すること
- (ハ) 幼児語(幼児特有の語例へは髮をカンカン手をテテ魚をトトなど云ふの類)は漸々普

(二) 通語に用ひ代へさすべきこと (是には保育者が能く幼児語を用ふる事とせず幼児が之を用ふるは禁せず唯保育者が常に普通の言葉を用ふる様にすれば自然なる)

(ホ) 組全體の幼児何れも臆せず保育者と親み話すの習慣をつくる様注意すべきこと

(ト) 祝祭日其他の定めたる挨拶例へは「結構な初春で御座いますとか天長節おめでたう御座います等の如き簡單にして完全な言葉は當日近くに於て幼児全体に話させ一つには話し方の練習一つには實用に致させるがよろしきこと

(チ) 一つの間に幼児等争ひて答へんとし喧噪に陥りし時不適當なる所置に出で幼児をして躊躇して答へざるの弊に陥らしめざる様注意すべきこと
(リ) 話し方の練習は常に談話の時間に於けるの

(三) 特に訓話及び庶物話につきての注意

(第一) 訓話

(イ) 訓話は幼児の善良なる感情を養はんためになざるゝものなる事
訓話といひ修身談と申しても幼稚園では此等の談話中に含まるゝ格言又は訓誡の語等の理窟や道理で幼児の行爲を律しやうといふのではありません此種の談話をきかす間に幼児をして善は喜び悪は惡むの良感情を養はしめる事により善良なる心の傾向をつけ不知不識の間に善は喜んで之を行ひ悪は厭うて之を避くると云ふ様に致さずするのが目的で御座いますから餘り訓誡的に無味乾燥的に話し去て一人たる者は當に斯の如くたるべしと、結んだのでは折角の好材料

も無駄になつてしまひます、幼児等は理屈や格言やを記憶して之で心と支配し行爲を左右し得るほど知的發達を致して居りませぬ寧ろ趣味あり興深き一片の談話として面白く感せしむる間に善良なる感情を起させれば宜しいので此の邊が中等教育等に於ける修身談と大に趣を異にして居る所です

(ロ) 又訓話としての價値は一つの談話

教訓の含まれたものを澤山に話して聞かせるよりも筋面白き一談話中に種々の善良なる模範事項の含まれて居るものが勝つて居る様で御座います若しも一人の理想的幼児を假想し之に有ゆる方面の善性を附したる長篇の面白き談話を作り之を一期或は一年間の談話材料にすることが出来ましたならば幼児等は該談話の主人公を恰も生命ある我友の如く考へ做して深く之に同情し其善性にならばはむことを思ふに至るべく徳性涵養上定めし有益なる事と存せられます尚訓話其の他に於て養はしむべき道徳的觀

念は他日發展すべき凡ての道徳の基礎となるべきものを與ふるに止まりませぬので即ち父母祖父父母兄弟姉妹下婢下男等家族に對する心得とか友達年長者教師等家庭以外即ち社會に對する道義心の基礎とか動植物愛憐の情家具物品を愛用すべき事及び自己に關する心得としては危険を避くべき事清潔を重すべき事自治の習慣の嘉すべき事等の類を種々の談話材料により不知不識了解せしむればよろしいので幼児不相應なるものは強いて話すも無効です

(第二) 庶物話

庶物話とは天然物(即ち動植(鐵)物)並びに人工品、自然界の現象等に關する談話を云ふので之により幼児の觀念を明了にし思想界を廣むると共に注意力觀察力を養ひ研究心を起さしめ併せて話し方の練習を致すを主なる要旨といふて、居ります之に關する注意條項は
(イ) 庶物話をなさんと欲すれば保育者まづ庶物

- (ホ) 關する明瞭正確なる知識を有すべきこと
 幼兒には保育者の説明が眞理として聞きとらるゝので御座いますから保育者にして若し誤りたる或は不正確なる觀念を有して居りますならば幼兒等は之によりて知らざるに劣る結果を得らるゝので御座りませう
- (ロ) 如何なる種類が最も幼兒の好みに適ふべきかを考ふべきこと
 一 庶物話をなさんと欲せば其材料中如何なる點が最も幼兒の興味を惹起すべきかを考へ該談話をして幼兒にとりては感興なき死物なるに終らしめざる様に注意すべきこと
- (ニ) 庶物話は必ず實物標本繪畫等につき具體的に之をなし且つ種々巧なる發問をなすことにより幼兒等をして其觀察を十分ならしむる所謂開發的方法を探るべきこと
- (ホ) 庶物話は特に室内保育に於てのみなざるゝものでなく遊園に於ける隨意遊びに於てなざるゝ場合が最も多く且つ庶物に關する知識はなるべく此場合に於て不知不識の間に收得し明瞭にせしむるが幼稚園保育の方法として尤も望ましくと、
- (ハ) 右につき遊園は單に運動目的に適ふ様設備せらるゝのみならず花壇樂園鳥籠獸檻等幼兒をして之に接して自ら種々の質問を發する様設備しおきて保育者よく其間に適當なる答を與へ得るの準備する様心掛け居るべし
- (ト) 實物標本繪畫等は全組凡ての幼兒をして十分觀察し得しむる様見せ方に注意すべきこと
 折角骨折りて描きたる繪畫も保育者の立てる位置如何により半かくれて一部の幼兒に見えざる事あり形小さき標本を遠方より示して後席の兒には其大體さへ見とり得ざる事あり注意すべし、
- (チ) 庶物話と季節の關係に注意し櫻の話や冬に七草の話を初夏になす等の事あるべからず寓言童話其他の庶物を中心として作られたる談話をなす際にはまづ豫め之に關する庶

物語をなし物其物の観察を終らしめし後本文の談話にうつるべき事、

(又)室内裝飾を新にする際例へば花を挿け代ふる時は新に飾らるべき花につき、掛物をかけたる折は其の繪につきて其都度一片の庶物語をなしかくをよしとする事

(ル)庶物語に於て幼児の未だ知らざる名詞を教へ又は新觀念を授けたる時も決して其記憶を強はず數回同事物を繰り返す事により不

知不識の間におぼえさすべき事

(フ)庶物語は上述の如く開發的方法によりてなされる事多きを以て幼児等の答へ方に注意し話し方練習を併せ行ふに最も注意すべき事、

繪畫掛物及標本等につきて、

實物標本繪畫等が談話の興味を添ふるため及び彼の觀念を明了ならしめんがために用ひて大に効ある事は兒童が年少なほど實物教授が必要なのに照しても明かな事です百聞一見に如かずとか知らぬ事は詳しく言葉で説明して貰ひますよりは繪で

示された方がよく了解り繪で見るとは標本で標本で知るよりは實物といふ方が最もよく了解せられ従つて最もよく記憶せらるゝ筈で御座いますから一方談話材料の選擇に注意すると同時に此等實物標本並びに繪畫の準備整頓に留意すべきで御座います、殊に童話寓話御伽噺等の内容は之に關する繪畫により事柄、理解を助け想像力を養ひ其談話の實像を思はしむるに缺くべからざる必要品で

御座いますから保育者は自分も描き繪師にも頼み或は店頭で適當なるものを求めて十分の準備を致し置くが宜しう御座います、尙ほ是等取扱ひにつき例により注意條項を述べませう、

(イ)繪畫は保育用に用ふると同時に室内裝飾にも適する様或は掛圖に或は掛物に又は額面等に美的に作り置くべき事、

(ロ)標本及繪畫等は清潔に整頓をなし置くべし破れたる古物を幼兒の前に提出するが如きは穢上忌むべき事

(ハ)繪畫を新調せんとする際は談話中の如何なる部分を畫題にとるべきかに注意し最も多く幼

兒の興味を惹起し且つ了解を助くるものをとるべき事但し幼兒をして繪を愛するの美感を養はんため色彩其他に注意し高尚優美なるものを得ん事に心掛くべし

(二) 保育者の一舉一動が幼兒の模上大なる影響を有する所以は已に述べたる如くなれば標本繪畫其他の取扱法の如きも保育者よく之に留意し一葉の掛圖を板上に掛くるに際しても或は一方に偏し或は其紐の繪面上に垂れかゝれる等のをなく正しく手際よく掛くるに慣れ置くべき事

(ホ) 斯くして提出されたる繪畫標本實物等は遺憾なく保育者に利用せられ幼兒に觀察せらるべく準備に要せる苦心をして水泡に期せしむる事あるべからず
(ハ) 童話御伽噺事實話等事柄を話す談話につき繪畫を用ふる際には談話中何時之を提出すべきかに注意し幼兒をして成るべく其繪の意味を自ら了解し想像せしめ且つ精密に觀察せしむるを要す繪畫中に描かれたる内容を細かに

(ト) 繪畫に關しては幼兒をして其の繪の趣味を味はしむる様留意すべき事折角春のうららかな所をかき表はして繪には係らず唯其話の筋書に關した事のみ話して、春の日の趣味さては奥山の風景等の趣を感せしめざるは遺憾な事

(チ) 保育者と黑板畫
繪畫の序に申しますが保育者は黑板畫を心得て居ると至極便利で御座います幼兒には少し面倒な事になると言語上の比喩又は説明では中々了解が出来ません斯る場合に保育者が判話しつゝすらく板上に其略圖なりと、手

際よく書き示す事が出来ずならばとれば便利か知れません是非少しは心得ておかねば

なりませぬまい
(リ) 二つ以上の繪畫を板上にかゝける事は幼兒の

注意を一方に集めさせる上に不利益な様に考へられますが一談話に關する繪ならば談話の進行につれ一枚より二枚と並べ掛けてさしつかへがありません

(ヌ) 小人數の幼兒等と同居して談話する折には何事も家庭的にやれますから繪を示す折などにも學校らしく鞭などを用ひず指した方が見よくもあり危険でもなくて宜しう御座います但し鴛竿は小奇麗なのを一本用意いたしてかきたいものです

幼稚園に於ける幼兒保育の實際

某 女 史

五談

談話は幼兒の最も好む所にしておもしろし、大抵は黒板の前に腰かけを二別に並べてなしたり、廣く一列に並べてなせしこともありし

が話しをする人に遠き子供は亂れ勝ちとなり易し、

たい空に話すはむづかしく大抵繪を示して繪とさきの如くなしたり、又二度目三度目の話の時には成べく發問的になし幼兒の知れることは話さしめぬ、

時には前に出で話さしむることありたり、はじめの内多くは話す積りにて前に出ながら話し得て歸るものありたり、然れどもかゝるものも大に其勇氣を賞しやりたり

今迄の内にて一番好みしものはやはり桃太郎なり、五六度もなせしが尙飽く様もなかりき桃太郎の話をなせし當時一の組のものが原三七を桃太郎として遊びくれしに三七眞に桃太郎となりて一の組のものを鬼となしこれを征伐せんとして一生懸命に追ひかけしは骨稽なり

き、舌切雀などはあまりおもしろからず又話し憎かりき、

六唱

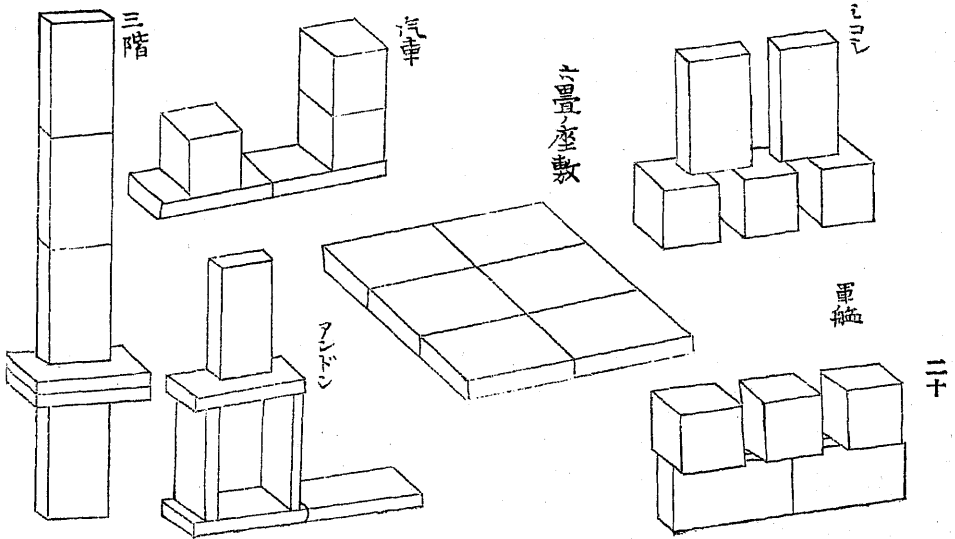
入園當時より唱歌は別段に教へしと云ふほど

七積

にもあらじ大抵は上の組より聞き覚えたれば
 たゞ其誤れるを直す位のことなりき教へしな
 かにて紀元節など少し骨折れたりこれ子供に
 は面白くなかりしやめならん大抵二組に分ち
 樂器の横に二列又は三列となしたり終り頃
 は一列となしたりはじめの内はいろく變化
 も附し飽かぬやうに歌はしめたり、第三學期
 にありても尙其方法をとりますが、次第に變化
 を少なくして歌ふこと、それを樂しましむる
 やうになす積りなり、
 發聲練習はてはへ調のド、ミ、ソ位をなしたり。
 唯の曲にて歌詞を變じ漱車電車等を歌はしめ
 しによるこびて歌ひぬ

木

入園當時は正方形、長方形、を四つ與へて隨
 意にせしめ其れと共に四の數へかたも練唱せ
 り其後正方形長方形を五つ又は六つ與へて五
 六等の數へかたを練習せり時には正方形と長
 方形とを混じて與へしやままり用ひかた少な
 く長方形のみを與へし方よほどおもしるかり
 き今之等につき子供工夫せし者を舉げんに



其後次第に積木の數を増し遂に八に達するに及びて第一、積木を興へたり箱を渡すやうになりてはいつもまづ其箱を人數だけ机の眞中に並べおき其後保姆の命によりてこれをつづとり定められし如くにわけあとは又もとの様に眞中に並べをくを常とせり而して積木の度毎に八の數へかた練習をなすを例とせり遊び終りし時には各箱の中に入れ保姆の許に持ち來らしむ又積木のみ興ふこともあれども多くは貝をも興ふ時としては植物の葉など興へしがよほど悦びで遊びたり

數へかたの練習は他のものによりてもなせしが主として此積木によれり

隨意に積ましむる時は涼車、軍艦、トンネル、オルガン、あうち、等最も多し、

小供が何か積むときは別に「何を積まん」との目的を有せずして積むこと多し、よい加減に積み重ねて「先生これなに？」と問ふもの多きはおもしろし、

八板排、環排、

九畫 方

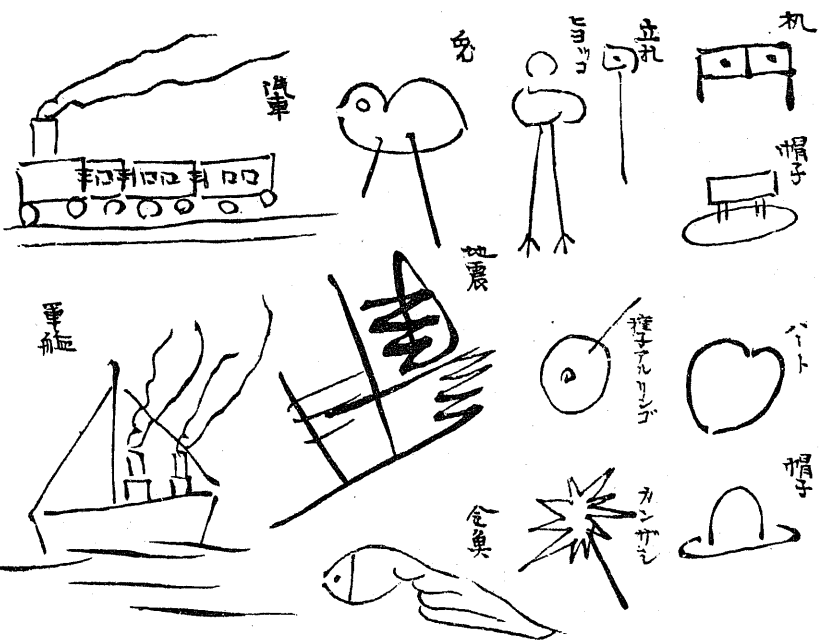
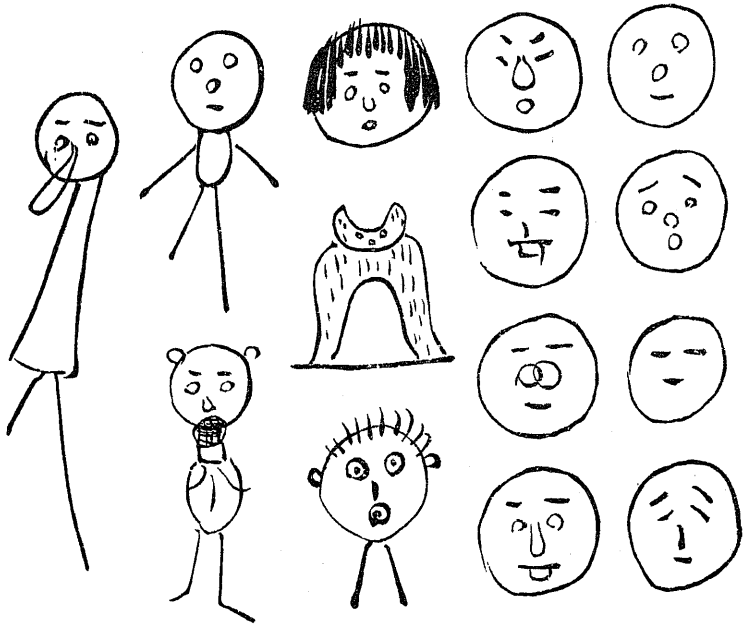
子供にあまり興味を起さしめず、これを積木の如く立体となすこと易からず又運動せしむること能はざるが爲め活動性にとむ子供には此方面につきてはあまりおもしろくなきものならんか板排にありて

雁を□□並ぶるはむづかしかりき

子供はうすき板を立てかけて立体となすこと上手にておもしろがりてなす、△□の如きは家として立体となし悦びるたり

はじめはまづ石盤もて隨意に畫かしめたりとにかくいやと云ひて石筆もたぬものはなかりき。たい何とも分らぬものをぐるぐると畫き廻しむるたり一ヶ月に一度は紙に畫かせて後日の参考とせり、

最も多く畫かれたるは電車にして團子旗など之に亞ぐ、今隨意畫中おもしろきもの少しばかり舉ぐれば



十外遊

外にてなす遊びの種類

一、かけっこ、或場所に線を引き四五人並びて一、二、三、にてかけ出す、多くは時場所を定め置き其所よりも来しみちを返すなり此時小山の上にてスキを肩に「僕が用意ドンといふ人だよ」といふ男兒のふもしろさ、
 一、鬼ごっこ、ジャンケンポンヨと幾度もくくり返して飽くを知らざるもの、
 如し、
 これ其勝敗を見るにあらずしてふしのジャンケンポンヨといふがふもしろさなり六七度もなせし上にて「それぢや先生が鬼になりませう」と云へば皆周章て逃げ出すあり鬼の袂に縋りておもしろさうに随ひ来るあり、喜色満面に溢るゝはよけれども先生はいつまでもくく永久に鬼なり、もし誰かに鬼を譲らんと其よし云ひわたさば今度は全

体の幼兒が鬼となりてたい一人の先生目がけ右よりも左よりも追ひ廻す實に無邪氣なる鬼ごっこなりかゝるもの最も適したりと見えていつも「先生鬼ごっこ」をせまるが常なり
 一「モーイーヨ」眼をあけて見れば庭の隅に四五人集まりて自分の顔ばかりかくして居れりさがすものも其れを見ぬふりしてこゝかしことありき過るかかしさあまり早くさがし出さば「つかまへなければいけない」と山口が必死になるも愛らし、
 一、砂遊び 入園當時最も盛に行はれしものにして暖かき日小山の麓にてザルとお杓子を友に誰とかれとよく遊びたりこの組は他の組よりも早く遊園に出づるを以て砂遊びの道具を占領し氣の毒なりき、當時はお山お園子最も多かりき其後は次第に進歩して電車、トンネル庭園等を作りたり、中には電車最も

一、
かもしろし、即ち積木の上に砂を盛り
其れに小さき枯枝二本突きさして押し
進むなり他の遊びの盛となるにつれて
砂遊びは入園當時はと盛ならず氣候の
關係にもよる、

一、
砂糖や、米や遊び、庭の隅にも多く女
兒に行はる煉瓦と瓦とをすり合せて粉
を作り粉屋又は砂糖屋と稱す又小石に
て米屋をなす此類には尙料理屋植木屋
等もなせり

一、
電車遊び、スキの先きにて線路を畫く
もの之が二本のスキを間に前後となり
歩むもの數人が一列となり各前の兒の
帯など持て連り歩むもの等あり
採集、石、木の實、藤の葉柄、藤花、
落葉、草、昆蟲等にして非常に悦ぶも
のなり濱田榮子、土井富貴子、小平い
よ子千葉たか子吉村信子、等なか／＼
熱心なり、よき遊びなり
昆蟲を捉へしときはこれを持ちやる

一、
やうにせしめたり
園藝の手傳ひ、花壇の手入れなどする
時には必ず來りて手傳ひ積りなり、土
を掘り返して居れどもはや終りてされ
いにせし所までも、掘返し草を取り居
れば花咲く苗までも引き抜くなとなか
／＼に賑はし、曾て伊藤龍夫來りて軟
くなせし地の中にタデを一本植え去り
ぬ。あまり愛らしければ其まゝなし置
きしに植つて小さきあるじ待ち顔に
さきたりしもおかし

一、
人を巻くこと

一、
二人三客、第二學期あたりより盛にな
りたり

一、
場所とり、鬼も何もなくなた／＼相談して
こゝかしこと場所を移り變るものにし
て極めて幼稚なるものなり

一、
軍ごっこ、軍ごっこといふほどあ
らず、たいスキを肩にして、
追かけられたりなすものにして男兒中

十一 食事

凡て外遊まへに行いはることなるにありてもはじめは子供のみにて遊ぶこと能はず保母ほむ先まきに立ちてこれ等を導くこと最も大切もつとたいせつなり然しからざれば子供はたゞぼんやりと佇こぼむなり然しかれども第三學期だいさんがくきにありては一人にても遊ぶやうになりたり一人ひとりで遊ぶやうにならば保母は用なきかといふに決して然らず却てかく遊びの盛さかんとなるにつれて其中そのなかに混まじ其遊びを監督指導かんくうしうどうすることに盡力じんりきすべきなり又外遊まへにありては怪我けがをなすこと比較的ひかくてき多おほきものなれば大おほにこれが監督かんくうに注意ちゆういすること大切たいせつなりこの一年間いねんかん云ふほどの怪我けがなかりしは最も幸福しゆふなり、

食事は子供の最も樂たのしむところにして「先生僕せんせいけんパン」先生僕せんせいけんパン」先生私せんせいひくけんパン」
 「わたしはパン」と口々に朝あさよりたのしめるもおもしろし入園にようえん當時たうじは隨意ずいいとなせしが四月十日しつじつにお辨當べんたうをもち來きたりしもの八名はちめいなりお辨當べんたうの時ときは、必ず手てを洗あらはしめ一同揃いっとうぞろひし上に

十三 退園

て正しく樂器がくきにて禮れいをせしめそれよりはじむはじめの内うちはあけること、御茶碗おちawanにうつしとること、仕舞ふことすべてなし與へしが次第しだいに自分じぶんにてなすやうに導みびき第三學期だいさんがくきにては大抵たいてい自分じぶんにて出來るやうになりたり、(但し時々手傳てんぱんを要えうす)辨當べんたう早はやきは十五分じふごふん遅おそきは四十分しじふふんもかゝる終まらば(御馳走ごちそうさま)と云はしむ終まりしものは遊園いうえんに出て、遊あそぶ但し其時そのときの都合ごうあつにより監督者かんくうしやなきときは暫しばらくく部屋へやの中なかにて遊あそばしむ、教生けうせい出いづるやうになつて後は一人は子供こどもと共に食事じきをなし外の監督かんくうに出いづるやうにせり
 寒さむき時は鐵管てつくわんの上うへにお辨當べんたうをのせ置おきてわた

「オハイリ、三さんの組ぐみオハイリ」先生せんせいもう御歸ごかへり?」と問とふやがて遊あそび疲つかれし子供こどもは手を洗あらひて部屋へやに入る帽子ぼうし、外套がわい肩かたかけ、お辨當べんたうをそれそれに配くばり與あたふ子供こどもはよく其主そのぬしを知しりて新あららしき教生けうせいなどに「それは何某なに某さんの」と

教ゆ一騒ぎして静まれば何れも手を膝にお辨
 當前に行儀を正す、やがて「今日の遊びもす
 みました……」と歌を終るや禮をなして部
 屋を出づこの唱歌を歌ふときは朝の出席調べ
 と同じく其行儀を正しくせしむる習慣とせり
 玄關に至れば何れも「先生サヨーナラ……」
 と口々に聲張り揚げて云ふ其顔をよく見ざる
 ときはなかく承知せず三度も四度も「先生
 サヨーナラ」といふ、とりまぎれて「先生オハ
 ヨー」といふもあり、半日を遊びつくして林
 檜のやうなる顔して歸る姿を見送りは怪我
 なかりし一日を悦ぶが常なりき、(をばり)
 四五人の子供を集めて何となくたい思ひつき
 のまゝをはしめしたおもしろきふしもありぬ
 子供の精神の大分及び観念聯合の様も少しは
 知らるればとて其まゝをかきつく

- 盆、鷺、鷹、さじ、鳶、菊、猿、熊、軍艦、鼠、
 棒、菊、腰かけ、椅子、机、茶碗、硯箱、硯、
 鼠、金魚、鹿、兎、鶴、猿、龜、熊、菊、軍
 菊の花、椿、お香、鯉、余太郎、緋鯉、熊、
 盆、鷺、鷹、さじ、鳶、菊、猿、熊、軍艦、鼠、

猫、きれ、大鉄、おだんど、日本一のきび團子
 ヒヨータン、リボン、毛、かべい、お味噌、
 おもちや、櫛、かんざし、椅子、獅子、熊、
 お戸棚、木、葉、眼、鼻、頬、草、櫻、れん
 げ、兎、時計、オルガン、ピアノ、鯛、本鐵
 管、土瓶、お茶、箸、みかん、梅、筆、
 ペン、エンピツ、筆、墨、柿、種子、ザ
 ル、炭屋、水道、波、お肴、貝、窓、蛤、庖
 丁、西洋庖丁、皿、袖、みかん、耳、帯、前
 かけ、リボン、鶴、草、軍艦、人形、御雛様
 手、羽織、渦巻、竹、木、梅、松、龍、
 笥、きこのこ、金魚、おこし、箸、茶碗、
 お辨當、口、鼻、耳、軍艦、鼠、お馬、お馬
 のせなな、えび、おなか、オルガン、お鯉飽
 お麥醬、パン、ジャム、束髪、パン、おどん
 ぶり、お酒、水、徳利、お湯、お湯呑、お辨
 當、鶴、火鉢、帖面、鉛筆、ごひけし、箸
 箱、着物、毛糸、ごみ、蒲團、彈丸、風呂し
 粒、お菓子、紙、箱、短筆、色鉛筆、ごはん
 海苔、手、鳥、龜、猿、兎、金太郎、熊、

鹿、兎、鼠、蝙蝠、庭、葡萄、猿、壁、硝子、鼠、薑、お肴、袋、富士山、藤棚、櫻、兵隊さん、鐵砲、劍、刀、スキ、杓子、泥、三味線、琴、お醬油、お砂糖、風呂敷、前かけ、フランネル、寢臺、いかり、雀のかうち、帽子、紙、手、頭、眼、チョンマゲ、麒麟、象、犬、牛、龍、竹馬、櫻、藤、顔、金魚、舟、牛馬、リボン、毛、おでこ、眼、鼻、鼻の頭、鼻の口、硝子、前かけ、着物、乳くび、耳、襟、蟲、とんぼ、蝶、花、梅の花、齒、旗、亞米利加、日本、聯隊旗、蒸汽船、舟、帆かけ船、お月さん、三ヶ月さん、日本の軍艦、人の鼻、犬、鹿、こんく、鈴、ポチ、手毬、着物、ズボン、襦袢、羽織の紐、羽織、あたま、チョンマゲ、毛、靴止め、靴下、椽側、ふうち、石筆、勳章、色鉛筆、黒鉛筆、ボタン、木の花、色鉛筆、お役所、手、鼻、草、喉頭、おなか、血、虎、ライオン、鹿、馬、牛、鷲、虎、熊、お辨當、パン、バター、風呂敷、ジャム、水道、耳、みづく、鼻、菊、眼、蛇、蛇の

黒いの、駱駝、雀、雀の舌、舌切れ雀、軍艦、屋根、鼠、猫、木、金太郎、熊、帽子、獅子、麒麟、象、駱駝の赤ちやん、象象の赤ん坊、兎、リボン、瀛車、風、外、電車、の道、電車、電車、停電、電車が出る、さんちやく、わた、牛の肉、豚の肉、牛乳、棒の花、梅の花、櫻、の花、枇杷、呼子、留外、五徳、太鼓、笛、喇叭、着物、蓄音機、ポンプ、火事、葡萄、柿、桃、菓子、林檎、密柑、梨、笛、樂隊、落第、學校、一つ橋、大隊、中學校、師範學校、門、猿、鶯、鶏、鶏の子、ヒヨツコ、虎、馬、羊、羊の子、猿、兎、ケツト、蒲團、籠、絹、洋燈、草、泥、野原、お山、小田原、國府津、横須賀、神戸、帽子、紙、塵紙、鉄、外套、さもの、肩かけ、洋服のズボン、ボケツト、前かけ洋服のからだ、洋服の手、お人形さん、お猿、木杓子、スキ、桃、色、リボン、色鉛筆、雀、風船玉、アブラムシ、油、麥藁、

以上を通觀するに意味の上より連絡せるもの

あり、

(但し此時部屋内に軍艦の繪ありたり)
男兒の云ふところ軍艦、電車、漁車、猿、鷺、
スキ等多く女兒はリボン着物前かけ、菊、櫻、
其他名所に關係あるものを云ひ出せり
以上の中にて

動物は 九八、
植物は 四六、
人工物は 一一七、

一、家庭との關係
父兄母姉懇話會等には其家族より何れも出席
し種々懇談し子供の家庭に於ける有様等よく
分りて益する所多かりき、平常と云へども其
母など時々來りて參觀す、松平、佐々木、濱
野、等の父又は母、等よく參觀す松平の如き
は最も熱心にして其注意力等につきて質問す
るなどあり、



主人と僕婢

樂 天 子

中等以上の家庭にあつては、概して父子夫婦兄弟
などの關係ばかりで、其の間に他人の混在なきた
め、比較的家政整理にも宜しく、家族團樂の趣味
も自ら得らるゝものであるが、中等以上の家庭に
あつては、是等天然の血族者の外、家令家從又は
番頭手代の類、下女下男に至るまで一家内に雜居
し、ために何れの方面にも一段の復雜を來すは勿
論、延いて家政の糜亂を招き、從つて家庭の趣味
を殺ぐ様になる、吾人は家政整理のため、且つは
家庭の圓滿を期するがため、之が豫防策を講じね
ばならぬ、而して其雇人にも通勤者あり、宿泊者
あり、其の種類に至つても千差萬別と言はぬはな
らぬが、今茲には最も範圍を狭めて、世の主人て
ふ者と終日同居して、最も密接の關係を有する、
雇人中の雇人ともいふべき僕婢に就て陳べん。
主人と僕婢の關係たる、僕婢の欠點を吹聴せざる

主人も少なかかるべく、又主人を悪口せざる奴婢も少き世の中なれば、一應兩者の調和は極めてむづがしきやうである、併しそのむづかしいのは兩者自ら招くのであつて、本来左程むづかしいのではない、要するに今日主僕の關係の圓滿ならぬのは多くは相互の我利我欲にあらすば、新舊兩思想の衝突より来る目前主義に來りしものと思ふ、つまり主人の頑酷奴婢の專横は其根本であつて、相互の道徳心殊に同情心さへ發達したならばいゝ筈であるが、今茲に便宜上、兩者の本務を記して一般の參者とせん。

抑々奴婢なるものは、契約によつて主人に仕ふるものであれば、之を家族視するの必要はないやうだが、使役する主人一家に關係する所の尠少でないといふ點より自ら家族の如き待遇をせねばならぬことゝなる、即ち主人が奴婢に對する本務の極めて重きを知らねばならぬ、蓋し奴婢は主人の爲に内外の業務を執るものであつて、之が善惡は大に主家の經濟上に影響を與ふべく、又奴婢は父母兄弟と同じく、其家の子女に密接しその教育上

大に影響を與ふる所少なからぬものであるから、主人たるものは之を雇ひ入るゝに當つて出來得る限り適任者を選択して一家に害を與ふることなきことを期せねばならぬ、此に於て選擇の必要があるのである。

既に選擇して奴婢を雇ひ入れた後に於ては、給料食料、居所等に於て相當のものを給せねばならぬは勿論、能くこれを統御し、管理し、憐愛し、奴婢をして其職に怠らしめず、又喜んで一家の用を爲さしむる様計らねばならぬ、是に於て統御の必要があるのである。

斯く主人にありては選擇統御の必要あるを以て、之が運用を自由とせんとするには、須く監督と信用の寛嚴を失せぬ様勉めねばならぬ、若し主人にして監督の實を擧ぐる事が出來なかつたならば、遂に奴婢のために欺かるゝことあるべく、又信用を重んぜざる時は、遂に自ら欺かしむるやうになるのである、されば主人 奴婢に對して、常に選擇と統御の本務あることを了し、其の監督と信用との偏廢せざることを注意し、ために奴婢に向

つて殘忍苛酷の處置に出でぬ様務め、僕婢をして常に主人に心服して其本務を盡すことを心掛けしめねばならぬ。常に世の主人なるものを見るに男子は大抵外出を以て日を終へ、女子は終日家居して僕婢を使役するものなるに其女子即ち一家の主婦にして、一知半解の教育によりて理性の力に乏しく而も舊式の莊重なる家庭教育もなき者多く、しかも傲然として主人風を吹し壓制的に世の可憐の老幼子女を支配せんとして居る、斯る心掛けでどうして活きたる人の子を使ひおぼすことが出来やう、諺に曰く人を使ふは使はるゝ心持で使へとこれ人間使用法千古の格言である、其の金錢上に於ても、勞働上に於ても、なるだけ自他の差別をしない、誠心誠意を以て之に臨み、加ふるに之を制するだけの威徳を以てしたならば如何なる僕婢にても必らず主人に心服して働くものである、それ僕婢は一家の家族と同じく、主人より托せられて、日常須要品の買入等をなすばかりでなく、特に商業家、製造家の如きにあつては、往々其物品金錢の買入出納を掌るものであれば、須く其

私欲を抑制し、常に不正の舉動なき様に誓ひ以て主家の繁榮を計らねばならぬ、總じて主家の要件、其子女の家庭教育の上に於ても誠心誠意に對し、注意周到でなければならぬ、是れ僕婢に誠實の本務を第一となす所以である。以上の如く、世の僕婢たるものにして、假令誠實律直の念ありと雖も、其分限を忘れ若し專恣の行あるに至つては、大に一家の和平を亂すものである、故に僕婢は常に主人の指揮に従ひ、之れに服従の念を持して奉仕せねばならぬ、是れ僕婢に服従の本務を第二となす所以である。又主家の繁榮を欲するの念切なれば、勢ひ成るべきだけ勤績すべきものである、固より相互の都合によれど勤績の年限永きときは、自然主家のために家族視せらるゝの度深く爲めに相互の利便を來すものである、これ勤績を以て主家に對する本務の第三とする所以である。余常に世の僕婢たるものを見るに、多くは自己の本分を忘れて猥に悪しき僻見を持ち、我も人なり彼れも人なりとして、毫も社會の秩序を顧みず、

主家の正當なる命令をも之を殘酷なりと思ひ、殊に近年奴婢の需要の供給に超過せるを奇禍とし、やゝもすれば主家を輕侮し、主人を罵詈し、今日東家にありと見れば明日西家に仕ふて遂に身の置き所なきに至る、蓋し自ら招く所とは言へまことに慨嘆の至である。

主人と奴婢との本務凡そ以上の如くであるが尙ほ一言添ふべき事がある。それ主人の奴婢に對する本務は一家の主人ばかりでなく、一家の家族も皆之に對して主人に準せる本務がある、固より其家の子女は、主人の如き選擇統御の本務はないが、之に對し信用指揮の本務があつて、猥りに之を器械視して奴婢を玩弄し、または浴遇するごとき事あつてはならぬ、之と同時に奴婢は一家の老人子女等に對し、主人に準せる尊敬と忠實とを以て之に仕へ決して陰にあつて之を苛遣する等の所爲があつてはならぬ、

玩具店を開きて以來の余が感想

フレーベル館主 高市次郎

●教育的玩具趣味と骨董的玩具趣味
玩具の變遷を調べて或は二百年前の玩具を地中より掘り出したとか何々様の御愛翫になつたものだとかと云ふことに非常に趣味を持つ人もあり或は各地の玩具を集めて何處の人形だとか何處の笛だとかと云ふことに興味をもつて研究する人もあり或は此の玩具は西洋の何を模造したとか此の玩具には如何なる歴史があつて如何なる時勢が動悸となつて出来たとかと云ふ様なことに趣味をもつて居る人もある此等の人が來られて是は面白い事は珍らしい是は有益だと云ふことが各人の趣味に適當したるものでなければならぬから各々異つてをる余が是迄経験した處によると玩具に趣味のある人、玩具の狂人、玩具研究者玩具の蒐集者と云ふ様な人は大概此の種類の人々であると思ふ此等の趣味此等の研究は固より大人としては興味

もわり又必要なることでもあつて忽にすべきでないが玩具研究の最終目的玩具研究の價値は其の玩具が幼兒の心身發達の上に如何なる効果を與ふるかにあると思ふ因より或る意味に於ては大人も玩具を要するであらうけれども此處には玩具の意味を兒童が使用するもの、範圍に限りて論ずれば玩具の價値は兒童心身の發達に資する効果の多寡によりて決せらるべきものである如何なる玩具も仔細に觀察すれば多少兒童心身の發達に影響を及ぼさないものはないが中には發達を助くると云ふよりは悪影響を與ふる量の多いものがある余の所謂教育的玩具と云ふのは其の兒童心身の發達に資する効果の比較的少量なるものを指すのである玩具の研究は此の効果が可成多大なるものを選択し考案の廉價に供給するの道を講じなければならぬ歴史的地方的等所謂余の骨董的と唱ふるものは此の教育的玩具考案につきて必須缺くべからざるものであるが兒童に與ふる場合には羅馬時代の者であらうがウルデンベルヒの人形でであらうが關係はないのである世の父兄たる者宜しく自己の趣味を

外にして玩具の選擇をせねばならぬけれども此處に注意すべきは教育的に効果ありとて兒童が遊ぶに興味なきものは又玩具の價値の少きものと云はねばならぬ所謂玩具の特長は兒童自ら進んで之を玩び知らず知らずの間に心身の發達を遂げるのである兎角教育的と云ふことを唱ふる人は此の點の注意を怠ることが多いと思ふ教育者の考案せる玩具の賣れないと云ふのも是等の點が缺けてをるものではないかと思ふ、

●玩具製造人は如何なるものを工夫しつゝあるか有髯の紳士玉の如き愛兒を伴ひて玩具店に來ると想像せよばつちやんは靴音高く先づ駆け入りて處狭く雜然として陳列しある無數の玩具を右視左顧して安かならず父は徐に玩具を見せて下さいと云へる時店員の特指せるもの假令教育的の價値を有し父亦之に賛成すと雖ども幼弱なる覺感を刺撃するより強き勸誘物は兒童の身邊を圍繞せりばつちやんは容易く肯はずあれよ是よと目遷して雜然極りなき者を示さるゝ内最も強き刺撃を腦裡に與へたるものやつと其の撰にわたるのである此に於て

玩具は教育的價値に於て競争するものにあらざして兒童に與ふる印象の強弱を競争するのである製造者豈茫然たるべけんやで色に於ては優美高尚も何もあつたものではない濃厚なる餘色などを多く用ひ又何か動く様にと工夫するブリキ造の活動的觀察玩具の多く製造されたのも決して偶然ではない此に於て注意すべきは兒童を玩具店に伴ふは決して策の得たものではない已に與へたる玩具の状況に鑑み個性を顧みて系統的に各種類のものを撰ぶべきである

●餘り變つたものもない
 今度は洋服の先生が傲然と御入來イラツシヤイ無言でそこらあたりを睨ろく眺めてゐる店員は手持ち無沙汰で手をもじくしてゐると久かして餘り變つたものもないね店員はいくつ位の方ですかと問ふと四才の女子だ、では之は如何でせう、ふんこれはどうなるのかこれは……なるほど外には之は……ふん色々々々あるものだな、なる程之は面白いは、はあ之も動くのかい、なるほど愈に何かに決するのであるが一体玩具の知識は一般乏

しい如何になるか如何なる價値を有し如何なる目的で造られたかと云ふことを少しも考へない所謂詳に觀察を遂げないで慢然一腕變つたものはないと云はるゝが一般である安いものにも高いものにも良いも悪いもある玩具撰擇の場合には是非ともよく觀察して貰ひたい其の暇のない人は所謂フレール會の賛助員にでもなつて良いものを撰擇して貰ふことが得策である

●眞に難有か客様
 商人根性より云へば眞に難有か客様は可成高く澤山買つて呉れる人であるが余はまださまでに無趣味でない、既に兒童に與へられた玩具につき破損の模様危険の度興味の有無等を當方の勧める玩具につき批評しくるゝ人がある之は如何でせうわ、是は此の間貰つたが此處の處がすぐとれる之は何とか工夫しなけりやいけないねとか此のぶらんこには大變面白がつてまだにあかないとか云ふ風に親切に云つて呉れる人がある吾人研究者の参考となること非常である如斯人は必ず能く觀察する而して苦心の點を能く見出して呉れる眞に

難有な客様である

●菅原文學士を訪ふ

氏は兒童心理學の研究者で又玩具に就きても非常に趣味のある人だと云ふことを聞いて一日氏の宅を訪ふた應接の間に通ると歴史の玩具とも思召しきものが澤山列べてあつて已に興味を感じたのであるが先生に會つて色々話を承ると興味津々時の移るのを知らなかつてつい永居をして大變失禮をしたが其の間に得たる余の利益は少くない中に余が現今普通唱へてをるおもちや幼稚園の恩物材料手工材料運動具を玩具として研究すると云ふことに非常に賛成を表されて之等を玩具化すれば面白い練習的玩具を得るに違ひない玩具と云ひ恩物と云へども幼兒教育の用具材料と見れば變りはないのであるとの話であつた今の玩具店に其の一方が缺けてゐるのは撰擇の上に甚だ不便利なのである先生には益々研究の歩を進められ玩具界の大刷進を計られんことを希望するのである

玩具研究部の配布玩具

和田 實

三十四

本月は豫て本會に於て編纂中なりし幼兒の手工圖形を以て配布玩具に充てました。是は直接のちやと云ふものではありませんが此圖形に示してある様な色々な細工をして一つには幼兒に細工其ものを見せ一つには細工して出來たものを幼兒に與へて之を鑑賞させ、そして漸次に幼兒自身の細工を誘導する様にしたらば、幼兒の眼と手とは次第に練習されて遂には手技の一般的修養に多大の基礎を與へることにならうと思ひます、圖形は從來本會に於て永き實地の經驗上幼兒に興味あるものとやさしく出來るものを集めたのでありますから、父兄方にも圖形を一覽されたなら容易に出來ること、思ひます。尤もたゞみ紙は多少判らぬ所もあらうと思ひますが是は抜かして置いてもよからうと思ひます。細工に要する紙、豆、粘土、等色々な材料は父兄方の御考へで御近所で得易い

ものを以て代用されて差支ありません。従来恩物と云ふと一切特別の商人から特に造られたものを買はなければならぬ様に考へて居たのは、飛んでもない誤りで凡て地方には其所々に於て材料上色々な便宜と云ふものが違ひますから其便宜々々に應じて細工を選ばれるのが適當で、是は頓がて教育の初歩が郷土的でなければならぬと云ふ議論に叶ふ譯です。父兄方が其御積りで幼児の爲めに此圖形を活用されたならば幼児の幸福は勿論其教育上の効果は大なるものがあらうと存じます。併し前にも申した通り本圖形は直接の玩具ではありません。寧ろ一部の玩具の製造雛型とも云ふ可きものでありますから此圖形を唯子供衆に與へられた次第では何等の面白みもなければ利益もありません。故に是は何うしても母親なる方の御手本になされて幼児の眼の前で幼児と共に樂しき細工のまどろをなさる様々も御願致します。尤も此圖形を充分に利益ある迄に御使用下さるには何うしても恩物使用法に就いて一通りの御研究を願はなければならぬのですが、併し今は夫れ迄なされぬとして

も唯今説明しました様なことを充分御實行下さるたら夫れで結構だと思ひます。其中本會に於て恩物使用に關する理論及實際の一書を發行するつもりで御座いますから進んで御研究下さる方は御覽を願ひます。それから本圖形の代價は普通は定價金五拾錢郵税六錢で本會員は郵税共金五拾錢ですが賛助員諸君へは少數のことです。併し此に會計係の許可を得て郵税共四拾錢で差上ることに致しましたから別段來月分へ不足の繰越しは致しませぬ。左様御承知を願ひます、一軒の御家から二口以上御申込の方へは本圖形一冊と他は最近に輸入された色付の油土を差上げます。是は從來美術家の用ゐて居た油土を改良する積りで發明されたもので歐米の諸國で特許を受け近來盛んに兒童用として發賣されたものです。圖形中の粘土細工材料として此上ないものであります。尤も細工の後で多少手につきましたものは別段石鹼などで洗ふよりは紙で拭へばきれいに取れます。

(尤も此品は本誌原稿の切の時は理物は横濱税關に手續申でしたから多分は間に合ふ積りですが事に困りますと發送の雜誌よりも多少遅延致すかも知れません。此段一寸御斷り致して置きます。)

お伽話

金の兎

とよ子



昔々或處に一軒の樵夫の家がありました。お父さんは毎日山の中に入つては大きな木を切り倒して薪を造らへたり、材木を造らへたりして居りました。處が或日のこと樵夫は自分の切り倒した木の爲めに足に怪我をしましたので夫れの直る迄は仕事に出られなくなりました。そこで樵夫は三人のむすこを呼んで

父「お父さんは此通り大きな怪我をしたから明日から仕事に出られない。仕事に出ないと云と毎日の御飯も食べる譯に行ないが何したものだらう」と云ひますと

太郎「お父さん、それでは私がお父さんの代りに行きますせう」と云ふのではお父さんは大層悦んで

父「それは有りがたい、それでは御苦勞だが、行つて来て貰う、斧は私のがよく切れるから、持つ

て行きなさい」と云ふので太郎は仕度をして夜のまだよく明けなの中に家を出掛けました。出掛ける時にお母さんはお辨當に握り飯と粟の餅とを下さいました。太郎は急いで山に入つて一生懸命木を切つて居りました。頓がてお晝頃になつて、そろそろお辨當を食べ様と思つて居ると何處よりか一人の老よつた乞食が出て来て

「モシ、私は昨日からまだ御飯を戴きませぬ、何うかおひすびでも粟の餅でも宜しう御座いますから少し下さいまし」と云ひましたが太郎は中々しはん坊なので承知しませぬ

太郎「ア、それはお氣の毒だがね、是は僕のお辨當だから遣れないよ」と云つて少しも遣りませぬで

した。

其中に仕事も一方つきましたから太郎はお辨當を食べ様と思つて風呂敷包を明けて見ると是は不思議、確かに入れてあつた握り飯も粟の餅も皆失くなつてしまつて影も形もありません、仕方がないので太郎はひもじいお腹を我慢して夕方漸々家に歸つて

太郎「母さん、僕は今朝お辨當を間違へて持つて行きましたかね」と聞きますと母さんは怪げんな顔をして

母「いゝえ、間違つては居ませんよ外に誰もお辨當を持つて行く人がないのでから確かに違ふ筈はありませぬよ、なぜですか？」とお仰るので

太郎「夫れでもね、僕が開けて見たら何も入つて居ませんでしたよ是れ此通り」とお辨當を開けて先刻の空の所を見せようと思ふと是は又不思議お辨當の中は何時の間にやら元の通り握り飯と粟の餅とで一杯でありました。太郎も母さんも不思議

〜と云ひながらお父さんにも話して其日は夫れで済みましたがお切て翌日になつて太郎は昨日の通りお辨當を造らへて貰つて山へ出掛けて頻りに木切りをして居ると又お晝近くになつて一人の乞食が出て来て

「太郎さん〜私は一昨日からまだ御飯を戴きませぬお腹がペコ〜で逆も歩かせせん、何うぞお辨當を少し分けて下さいませぬか」と云ひました、太郎は相變らずしはん坊で中々遣りそうに

もしませぬ
太郎「いけないよ」僕のお辨當はね、お握りと粟の餅だよ、お前などに遣る様なものではないよ」と

云つて少しも遣りませんでした。其中に一方づけ仕事をしまつて、ドレかいしいお辨當を食べ様かと大きな木の根へ腰を掛けてお辨當の包みを開けますとははしたり又もお辨當は空の箱握り飯や粟の餅は又も影も形もありません、太郎呆れて是は

マア何うしたのだらう、とひとり言を云ひながら今日は直に仕事を止めて家へ馳けて行つて母さんに

太郎「母さん〜、今日も僕のお辨當は空でしたよ毎日〜お辨當なしではお腹がへつて仕方がないから今日はすぐ歸つて来ました」と云ひながらお辨當を開けて母さんにお目に掛け様と思ふとお辨當は今朝母さんが詰めて下さつた通り握り飯と粟の餅で一ぱいになつて居ます。太郎は

太郎「オヤツ、お辨當が」と云つたがり暫くは開いた口が塞がりませんでした斯くて其翌日も其翌る日も太郎のお辨當は朝一杯詰めて置いて晝には

は影も形もありません、そして毎日例の乞食は例の通やつて来ては

「太郎さん何うぞ少し下さい」と云つて居ました。太郎は一度も遣つたことがありませんでした。遂々しまいに太郎はお辨當の中が無くなるので山には半日さり行かれなくなりました。そこでこんどは次郎が

次郎

「夫れでは今度は僕が行かう」と云ひますので其翌日は次郎が例のお辨當をこしらへて貰つて朝早くから山の奥へと行きましました。

次郎は一生懸命木を切つたり倒したりして居ますと頃がてお晝近くでもあらうかと思ふ頃に一人の乞食が蹠跟と然も疲れた様な風をして出て来て

「次郎さん、私は今日で幾日も幾日もお飯を戴かないのでお腹がすいてたまりません、今に死にそうです、何うぞ、何でも宜しう御座います、食べる物を少し下さいまし」と云ひました。此次郎も太郎にまけない、しはん坊なので

「いけなしいよ、お前などにやる食物は何もないよ、と云ふて平氣で仕事をして居ました。夫れで

も乞食は「次郎さん、是はあなたのお辨當でせう、少し分けて下さいませんか」と云ひますと次郎は眼を圓くして驚いて飛んで来て今しも乞食が手を付け

「是は僕のお辨當だよ、お前などに遣るものではないよ」と云つてしつたたくつて向ふへ持つて行つてしまひました。

そこで次郎もお腹がへりましたので、ドレーと休みと傍の木根へ腰を下してお母さんのこしらへて下さつたおいしいおむすびと粟のおからん、さてどんなにむまいだらうかと考へながら包を解くと是れ、又してもお辨當は空の箱です。次郎はお腹は飢る食べる物はなし仕方がありませんから仕事を止めて家へ歸つて来ました。今朝来る時には別に重いとも思はなかつた斧もお腹のへつたせいか馬鹿に重くなり、足はつかれて次郎の家が向ふに見える様になつた頃には何んだか氣が遠くなつた様で苦しくたまりませんでした。家の近くへ来た頃はもう、何うにもこらへきれなくなつて次

郎はしく／＼泣き出しました。門口で掃除をして居らしつた母さんは之を見て

「オヤ、次郎や何うかおかしかへ、何處か怪我でもしたのかへ」と大層びつくりなさつた様でしたがだん／＼話を聞いてお辨當がなくなつた丈だと云ふので安心なさいました。そして母は

「何うして、そうお辨當がなくなるのだから不思議だねえと云はれながら次郎のお辨當を開けてみると、なんのこと、お辨當はなくなる所ではなくおむすびも粟の餅も今朝母さんの詰めた通りちやんとして御飯一粒もなくなつた様ではありませんでした。之を見た樵夫夫婦は何故斯うお辨當がなくなるのであらうかと不審でたまりませんでした。さて翌日になると次郎も、もう、行くのがいやだと云ふので、こんどは三郎が行くことになりました。處がお父さんもお母さんも三郎が小さいので心配だからと云ふので三郎をやることは承知しませんでした。併し三郎は

三郎「お父さん大丈夫です、僕はお晝のお辨當なんか食なくつたつてお腹が飢はしませんよ大丈夫で

すから遣つて下さい」と云ふので仕方がありません外に行く人としてはないのですから今度は三郎が行くことになりました。そこで母様は又々例の通りおむすびと粟の餅とをこしらへて下さいました、こんどは太郎や次郎の時の半分位しか入れて下さいませんでした。三郎は之を腰につけてお父さんから貸して戴いた重い斧を肩にかついで山の奥へと出掛けて行きました。

山の奥へ行つてから三郎はお辨當を木の根に置いて一生懸命木こりをして居りました。スルト又々お晝近くになつたと思ふ頃一人の老よつた乞食が何處からか出て来て

「三郎さん、私は今日で一週間ばかり御飯を戴きません、お腹が飢つて今にも死にそうです」と云ふのを見ると頭はぼう／＼と髪がみだれて着物にはあちらこちら破れて身体が見えて居る。其身体はと云へば手と云ひ足と云ひ眞黒で、まるでか湯などへ入つたことのない人の様です。その上一週間ばかり食べないと云ふのですから頬はこけ眼

はくばんで一本の杖をたよりに踰跟よるけながら歩いて居る様子は成る程見るからに今にも死にそうです。三郎は此憐れな様を一眼見るや否や根が慈愛深い子のことですから、如何にも氣の毒に思つて

三郎「夫れはく、嗚々困つたらうね、何か食べるものがあれば上げたいが、今生憎何もない。私のお辨當の中に少しばかりおむすびとあんもがあるかも知れない、あつたらお前さんに上るから持つてお行でなさい」と云ふので乞食は大喜びで「夫れは有りがたう御座います、お蔭様で命が助かります」と云ひながら乞食はお辨當を開けて麥の御飯のおむすびと粟の餅とを然もいしそうちに食べて居ました。不思議なことには今日はお辨當はなくなりませんでした。

老乞食は一人むしやくと三郎のお辨當を食べてしまつて三郎に向つて

「さて三郎さん、何うも有りがたう御座いました。お蔭さまで乞食の命が助りました。御禮にはよい木を教へて上げませう。此山の向ふの谷に大

きな核の木がありますから、それを切り倒して御覽なさい。其根のうちのの中にはきつと金の兎が居ます。夫れを持って町へ行くときつとよいことがありませうと教へて呉れました。そこで

三郎は急いで向ふの谷へ行つて見ますと成る程大きな核の木がありました。斧振り上げて一と打二た折ちやうくと打ちますと然しもの大木も根本から折れて凄さまじい音をして

メリメリとドシンと云ふ響と一所向へ倒れてしまひました。

スルト成程老人の云つた通り其根の下の所に大きな洞があつて其中に一匹の金兎がしががんで居りました。三郎は乞食の云つた通り、之を抱へて町の方へ行きますと道を通る人達は三郎の持つて居る兎を見て誰れも彼も驚いて居りました。所が其中に一人の悪者があつて三郎の後ろから兎の尾を捕へて取つて行かうとしました、そして其の手が兎にさはるかさはらない中に兎の尾と悪者の手とはピタリとくつついてとれなくなつてしまひましたので悪者は「ア、ア、ア」と云ひながら三郎に

引かれて行きました。之を見た悪者の友達は之は大變早く援けて遣らうと悪者の帯をつかまへると之はシタリ其奴もビタリとくつついて「ア、、、」と云ひながら引かれ行きました。

サア斯うなると町を通る人達は

「ア、ラ、不思議〜アレヲ御覽よ、面白いものが通るよと、大勢人だかりがして三郎の回りは黒山の様です。あんまり人立ちがはげしいので巡査さんが来る、見れば金の兎に二人の悪者が引かれて行くので之を放さうとおまはりさんが手を伸して悪者の帯にさはると又もビタリとくつついてこんどはおまはりさんも引かれて行きました。スルト向ふから来たのはおまはりさんの知つて居るかちいさんとおばあさん、

老人「ホーホ是は〜何うなされた」と云ひながら一寸巡査のサーベルにさはつたと思つたら又もビタリ、オットトト、、、と云ふ中に是も又すいつなかり、傍に居たおばあさんは驚いて

老女「おちいさん、マア何をするんですよ、年寄のくせに」と云ひながらおちいさんの背中にさはる

とおばあさんの手は其まゝおちいさんの背中にビタリ之もオヤ〜〜と云ふ中に同じくすゝつながり。次に来たのがおちいさんおばあさんの孫むす子と孫むすめ、兄さんは肩からかばんと掛けて學校の歸り妹は手にお辨當と豆細工を持つて幼稚園の歸り、今しもこゝまで歸へて来た所がおちいさんとおばあさんが

「ア、、、大變〜早く来ておくれよ〜」と云ひながらひかれて行くので先づ驚いて飛びついたのが妹の方、おばあさんの帯につかまつたと思ふと之もビタリ

「アラ〜〜兄さん〜大變〜〜早く放して頂戴よ」と云ふので兄さんは驚いて妹の襟首をつかまへると之もビタリ同じくア、、、と云ひながら引かれて行きました。之を見た往來の人々は何うするにも仕方がありません、あれよ〜と云ふばかりで誰も彼も助ける人はありませんでした。それで悪者と巡査と年寄と子どもがヤ、、、と云ふもあればオ、、、と云ふもあり子供はワ〜ワと泣くおちいさんはオット、、、と云ふ色々の

人が色々のことを云ひながらすいづながりにつな
がつて行くので其奇妙なこと、云つたら又と再び
あらうとは思はれませんでした。

時に此町の王様の御殿にはかねて生れてから笑つ
たことのないお姫様が居らつしやいまして母様が
色々可愛がつて下さいますけれど何うしても笑
ふと云ふことがありませんでした。そこで遂々王
様は國中へ布令をして若しお姫様を笑はすことが
出来たら其人を此國の王様にして遣らうと云ふこ
とになりました。處が今三郎が金の兎を抱へてす
いつながりを引つ張つて町へ來ますと丁度よいわ
んばいにお姫様が御殿の御窓から其奇態なおかし
な様を御覽になつて何時になくキヤツ／＼と
お笑ひになりました。其處で約束であるからと云
ふので三郎は王様の御殿へ呼はれて御世繼となり
三郎のお父さんやお母さんやそれから太郎や次郎
にはたくさんのお金を下さつて一生仕合せに暮す
ことになりました。

めでたし／＼／＼／＼

雜 錄

●通俗心理講話

先般帝國大學法醫學教室にて其第一回を催ふさ
れたる同講話會は本月五日神田三崎町バブテス
ト教會にて第二回講話會を催ふす由。當日の講
話及講演者は左の如し

一、日本の舞踊と美容とに就て

理學士 田邊 尚 雄

二、嫁と姑

高島平三郎

三、フランセットの話

文學博士 福來友吉

●最近の幼兒教育關係書

最近に出版されたる幼兒教育關係書は

幼稚園遊戲的手工圖形

本會發行

定價金五十錢

○波多市松著

小どもの研究

實業之日本社發行

定價金七十錢

○岸邊福雄著

お伽話の仕方の理論と實際 實文館發賣

定價金七十錢

○石田艶著

自然物を應用したる圖形 橫濱勉強堂發賣

定價金貳拾五錢

の四書で何れも幼兒教育必讀の書物と存じます取
えて御購讀御閱覽を御勸め申します

幼児教育法

定價金壹圓
郵税金拾錢
會員は金壹圓
郵税共金壹圓

教育を完全にするには其根本たる幼児からして教育して掛らなければなりません。本書は何うしからば此幼児教育を完全にすることが出来るかと云ふことに就いて組織立ちたる説明をしたので熱心な母様達や幼稚園の先生には是非御精讀を願ひたいものです。

幼稚園遊戯手工圖形

定價金五拾錢
郵税金六錢
會員は金五拾錢
郵税共金五拾錢

本書は子供の手細工の雛形及び母親や幼稚園の先生が子供に作り與へるに必要な細工物を圖木したもので家庭幼稚園及び小學校の初年級に必要なものであります殊に是から幼稚園の保母になりたいと云ふ方々には尙更必要のものだらうと思ひます。

曾てなき お安い電車

一、電氣應用の玩具を普及せしめんとし特に弊店の製作せるものなり

一、乾電池二ヶにて自由に廻轉す三ヶなれば充分なり

一、電柱架空線の取り付最も簡單なり

一、定價荷作り送費共拾圓、電池壹個七拾錢

東京九段中坂

フレール會

各女學校御用

美術造花材料一式

半製品及鋸打拔類

摘細工材料

絹縮緬及金銀モール
寫真臺紙柱掛

瓶細工材料

刺繡用絲及針

東京市本郷區眞砂町十五

卸小賣 百花堂 木村喜兵衛

地方御注文ハ代金引替ニテ郵送ス營業目錄御報次第郵送ス

明治四十二年六月一日印刷
明治四十二年六月五日發行
編輯兼東京市小石川區竹早町七二
發行所 東京市神田區錦町三丁目熊田印刷所内
女子高等師範學校内
和持直印刷者 日下主計發行所
フレイバー